

おぐらおが

(題字は元学長 山田守英氏)

第 54 号

昭和62年12月10日

編集 旭川医科大学
 厚生補導委員会
 発行 旭川医科大学教務部学生課



(写真撮影 歯科口腔外科 島崎 善徳)

キクイタダキ

本の移し替え……………原田 一典……2	体育大会……………7
ちょっとメキシコ……………大野 秀樹……3	解剖体慰霊式……………7
海外だより ウエスト・ラフィエットから ……晴山 雅寛……4	新入生研修(第2回目)……………7
研究室紹介(細菌学講座)……………錫谷 達夫……5	冬型交通事故の防止について……………8
解剖学実習を終えて……………児玉 晴美……5	窓 外……………原田 吉雄……8
昭和62年度通学方法・居住状況調査結果一覧…6	



本の移し替え

原 田 一 典

最近、転居のため手持ちの本を移動させなければならない事態に陥った。書籍の置く場所を移し替えるということは思いの外厄介なことである。まず書架にある書物を下ろして段ボール箱に詰め込む。その際、今まで書架に納まっていた本の中には、場所により天や小口に埃が積っていて、それらを払う必要もあろう。軽くはたきで飛び散らせられるものならばさして苦労もないが、長年を経ると特に和綴や布表紙あるいは帙などは、時に一冊一冊ブラシでこすり落す。昔のこと学生時代、隣の東洋史学の教授室の大掃除で、四面の書架からつぎつぎ下ろしてそのまま学生が胸元に捧げ持つ数冊の和綴本に、その学生の鼻先で教授が力まかせにはたきを叩きつける情景を目にしたことがある。もうもうと上る埃に対し、学生は45度程度顔を左・右にそむけることでしか防ぎようがなかった。自分だけ用意して教授はタオルで分厚くマスクをしていた。東洋史学に行かなくてよかったとホッとしたものである（後にその教授は学生のみならず学部全教職員からボイコットされて免職となった）。単純な作業をしながらこんなことも回想する。

ようやく箱に詰め込むのであるが、箱が大きければ重く持てない。経験では、書籍は半間幅の書架1段分を平均して2箱に納める程度が適当である。しかしそれでは大型本は入らぬ。最近は見せる本が流行って、大型でかつ上質のアート紙を使用するためやたらに重くなっている。それから、本の詰った箱を運搬して、新しい書架に本を取り出して納める。これまでの作業工程は、たしかに苦労もあるが、いってみれば肉体労働が主体で、大変ならば人の応援を得るなり、場合によってはすべて他人まかせでも事は足りる。本の移し替えはそれにとどまらない。

元来本は読むもので、何故読むかは人様々であろうが、読み終わった途端に処分する人もいる。私の場合は勿論暇つぶしに寝転がって読んだり見たりする本も購入するが、それらを含めて研究に利用することが多く、いつ、なにに使用するか計り知れないのでなかなか処分しがたい。それに歴史学は関連分野が多く、いきおい種類も増加する。これらの本を利用するためには、それなりに見やすいように、取り出しやすいように分類がなされて書架に納める。あらゆる分野の本があるわけでないから、当然図書館学上の分類は採り得ない。その人の所蔵と利用に応じた分類がなされよう。単純に本の版型とかアルファベット順によったり、あるいは著者名やジャンルや内容

などによる分類が自ずからなされる。冊数や種類が増加せば、また視点が変われば、その分類は修正され改訂もされる。分類なくしては極度に使用が煩雑である。ところで移動にあたっては、この本の分類収納が頭を悩ませるのである。

今まで書架においてそれなりに分類収納がなされていたものを、一旦箱に詰めて移動すると分類はメチャメチャになってしまう。箱に分類記号でも付しておいては、と考えるが、短兵急の場合にはそのような暇もなし、まして他人のお手伝いを仰いでいる時など、分類それ自体も知るべくもなく、また指示して記号を付してもらうには余りに気の毒であり、互に煩雑である。それに今回の移動では、160箱を箱のまま書庫に積み重ね置かれては完全に身動きがとれなくなるため、結局無差別に片っ端から箱に詰めて運搬し、新書架に収納するよう運送業者に依頼した。5人の人達が来て書籍のみで一日の作業であった。かくして形の上では移動が完了したが、崩壊した分類を再構成するという、さらに面倒な作業が残ってしまった。しかもこれだけは自分一人の作業である。

幸いに、大学研究室に置いてある本の収納をも想定して書架を設置しておいたので、今回移動分の倍のスペースがあった。全100巻の日本古典文学大系・明治文学全集を初めとする各種の叢書類、それに露伴・鷗外・漱石・啄木・寅彦・直哉・劉生・龍之介・李太郎・荷風等々の個人全集が割合に多かったので、分類収納作業の出足は好調であった。バラ本となってぱったり止った。中には赤茶けた週刊誌なんぞも出てきて、なんでこんな本をとってあったのだ、と自分に腹を立てながら真をめくると、安保持集であったり、全国美味い物めぐりであったりして、やっぱり残しておこうと書架の間をウロウロする。「国体の本義」「承諾必謹」等、軍国主義の亡霊もあるが、今ではそれ自体まさしく歴史研究の対象である。また本というのは不思議なもので、大半は購入したその時々と、購入の意図や書店の情景まで、その本を手にするると浮んでくる。しばしばそんな思い出で作業は遅れる。かくして2ヶ月、夜な夜なの作業は未だ完了しない。読書の秋というが、目にするのは背表紙のゴチック活字のみである。

(歴史学 教授)



ちょっとメキシコ

大野 秀 樹

徒然ならないままに。

メキシコでは、左翼とか右翼とかいわない。

——あいつは、左か北か。

といういい方をする。メキシコの北はアメリカ合衆国だからだ。日本でも、米国はちょっと遠いが、右か北かの方が正確な表現かも。

メキシコの男性は、日本に来るとよくもてるらしい。留学生は「日本語集中講座」で自信がついたのか——もちろん、早いやつは来日と同時に——、早速、日本のお嬢さんとデートにくり出す。お決まりのコースを終えて、最後は夜の公園とかそんなところだ。ラテン系の紳士は、女性がこんな場所まで付いてきたからには、何もしないのは大変失礼だと思うのである。そこで、ゴニョゴニョゴニョ。すると、うれしいことに彼女は「ダメ！」というのではないか。

——大和撫子って、なかなかやるもんじゃない。

彼は、ますますゴニョゴニョゴニョ。彼女はとうとう本気で怒り出して、「ヤメテ！」

こういわれてやめてしまう、いや、ハイヨー・シルバーとならないメキシコ人はいやしない。そのあげく……。スペイン語入門講座。DAME は DA (DAR: 与えるの2人称単数命令形) と ME (私に)。すなわち、英語の GIVE ME. YAMETE は YA (いま) と METE (METER の2人称単数命令形)。METER の意味は、どうぞ辞典で。ここで書くと、「かぐらおか」編集委員会の検閲をパスできないかも。日本人同士ならどうなるか。それは、みなさまご承知のとおり。

陽気なメキシコ人は、それだけに光と影の差が大きい。たとえば、陰湿な偽善性。メキシコ人が日本人と知り合いになると、よくいうセリフ。

——メキシコ人の祖先は、昔、ベーリング海峡をとってアジアから来た。われわれには同じ血が流れている。文字どおり日本人と同胞のインディオをいつも馬鹿にしているくせに。しかも、彼ら自身はこの矛盾に気がついていない。日本でも同じことがありそう。おっと、ここでは政治の話はやめ。しかし、メキシコ人もいっている。

——日本人は、すばらしくて、恐ろしい。

もうひとつ。メキシコ人の家を訪問すると、あるいは住所を尋ねると必ずいわれる言葉。

——どうぞ、あなたのおうちと思って。

これを真に受けて、(また)訪れるととんでもない目に

会う。門前払いをくわされるのがオチだ。日本でも、転居通知の常套句。

——近くにお越しの際には、ぜひお立ち寄りください。

「あなたのおうち」の方が、気のきいたセリフか。しかし、京都にはもっとすごい言葉がおます。

まったく別の話。野球。3回を終えてリードしているチーム。監督は、先発投手に替えて、以後3人の投手にちょうど2回ずつ投げさせ、無事勝利。さて、勝利投手はだれ。それは、4回から投げた3人のうち公式記録員がもっとも投球内容がよかったと判断した投手。実は、メキシコ社会で出世することや金を儲けることも、ほとんどすべてこの公式記録員(お上)と知り合いかどうかにかかっている。時の最高の公式記録員(大統領)と関係をもてば、ヤッホーだ。この点、日本の方が公平いや平凡か。

ひとつだけ医学の話。メキシコで医師になるには、学部教育後インターンを1年、その上、社会奉仕を1年間行わなければならない。社会奉仕とは、ごく辺鄙な診療所で、医師としてほぼ全権を与えられてたった一人で医療活動を行うことである(看護婦の半分くらいの給料は出る)。医師免許はないし経験もほとんどないので、診療を行う方は真剣だろうが、受ける方も緊張するだろう。とは日本人の感覚。結構、うまくいっているのだ。メキシコも流行に遅れず、しっかり医師過剰時代だ。にもかかわらず、この制度は当分続くようだ。この制度の是非をここで論じても仕方がないが、「なんとしても自分でしなければならない」のは、すごい体験だ。自治医大の卒業生がちょっと似ている。

メキシコは、マヤ文明などの偉大な歴史をもつが、やはり未来の国だ。ひょっとすると、いつでも未来。「光と影」ではないが、経済が駄目でもすばらしさに満ち満ちた太陽と怪物の国。柔軟性といい加減は表と裏。アミーゴ、このままだ。

(生理学第1講座 助教授)

海外だより ウェスト・ラファイエットから

謝 表 神 入

晴 山 雅 寛

私が現在住んでいるここウェスト・ラファイエットは典型的なアメリカ中央部の大学の街のひとつです。街の人口は6万人程ですが、その半分以上を私の通っているプッチュー大学の学生が占めております。街の中には大きな樹木が生い繁り、その林の中に住宅が点在しています。その樹々も夏の濃い緑から紅葉の季節へそして今は野球のグラブ程の大きさのカエデの葉が、ガサガサと大きな音をたてて落ち始め、まもなく冬を迎えます。プッチュー大学はインディアナ州立の総合大学で州内にいくつかのキャンパスがありますが、ここウェスト・ラファイエットが一番大きなキャンパスです。工学部系に伝統があるようで、フット・ボールやバスケット・ボール等のスポーツには大学名としてボイラー・メイカーの名が使われています。インディアナ・ポリスには医学部があり、ここがアメリカ政府によってエイズの研究センターのひとつに選ばれたことが最近の新聞に載っております。

さて、今はフット・ボールの季節です。フット・ボールは日本の野球のようにあるいはそれ以上にさかんです。日本の町のあちこちに野球のバック・ネットがあるように、こちらにはフット・ボール特有のH型のゴール・ポストがあります。ここの大学にも6万人以上の収容力を持つフット・ボールのスタジアムがあります。アメリカにはプロのフット・ボール・チームもあり、中でも子供達に人気のあるシカゴ・ベアーズを示すCのマーク入りの商品がたくさん売られています。ところがプロは有力選手が今年はストライキ中とかで、試合の方はいまひとつ盛りあがっていないようです。その分、ビッグ・テンとかローズ・ボールとか呼ばれる大学のリーグ戦の人気が高まっています。ボイラー・メイカーの成績は今ひとつのようで、街中静まりかえっています。先日、イリノイ大学に勝ったときは、皆大変な喜びようでした。(10月末現在、この1勝を含め2勝5敗1分です。)

さて、大学の話にもどりますが、私の通っている物理学科には大学院以上の研究者が300人以上おります。当然アメリカ人(いわゆる白人)が多いのですが、それについて中国、台湾、韓国、マレーシア等アジアからの学生や研究者が多く、顔だけを見ていると日本の大学にいるような錯覚に落ち入ります。大学新聞に興味深い記事が載っていましたので、一部転載します。この資料から判るように、35万人近い留学生がアメリカに来ていること、アジアからの留学生が特に多いこと、意外にもイラ

ンから1万2千人以上の留学生が来ている点など読み取れます。

さて、研究面では実験物理関係がとても活発です。ひとつは今年ノーベル賞をもらったことで、一時程の熱気はなくなりましたが、高温超電導の研究です。過去にノーベル賞を得た人やそれに近い大先生が毎週のように大学に来て講演をしております。もうひとつは、素粒子実験のグループです。ここから車で3時間程の距離にある国立フェルミ研究所の大型加速器が本格的に動き出したためです。先日、陽子と反陽子の衝突で1.9TeV (=1.9×10¹²eV)のエネルギーを得ました。こんな大きなエネルギーを人間の手で制御するのは初めてであり、これから先何が得られるか楽しみです。

しかしながら、このような状況にあっても皆が皆、夜遅くまで研究のため大学にいるわけではありません。6時過ぎに大学を出ようものなら、広い駐車場には私の車が1台だけということもめずらしいことではありません。

アメリカ人は家庭での生活を大事にしているようです。土曜日になると、家族でドライブをしたり、大きなキャンピングカーを引っばっての小旅行をしたり、はたまた、大きなカップにダイエット・コークそしてハンバーガーを両手に持って、フット・ボールの観戦を楽しんでいます。私も最初は、彼等のように、ドライブを楽しんでおりましたが、日本人にはやはりゴロ寝とテレビで休日を過ごすのが一番のようです。

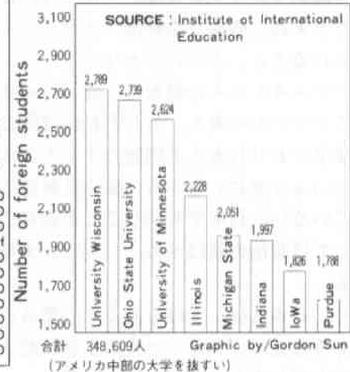
資料 1

Where they're from

The 10 leading countries of origin for international students on college campuses across the nation:

Taiwan	25,660
Malaysia	21,640
China	20,030
Republic of Korea	19,940
India	18,350
Canada	15,700
Japan	15,070
Iran	12,230
Nigeria	11,700
Hong Kong	11,010

アメリカ留学学生数(1987年) Where they're going



(物理学 助教授)

研究室紹介

■ 細菌学講座 ■

錫谷 達夫

昭和48年旭川医大の設置に伴い、東教授を中心に細菌学講座が開講された。それから早14年の歳月が過ぎ、現在のスタッフで当時の様子を知っているのは東教授と吉田助手の2人だけである。

残念ながら当大学には、微生物学を担当する講座が1講座しかないため、教育面では細菌学、ウイルス学、免疫学と広い範囲を受け持っている。又、看護学校3校、検査技師学校1校の講義もあり、時間の遣り繰りをして何とかこなしている。

研究面では、スタッフの移動に伴い若干のテーマの変更はあったが、大筋では“ウイルスの増殖抑制物質について”ということになろう。東教授と研究生・佐崎（旭川日赤・内科）は結核菌の菌体成分である TDM の接種により、マウスのインフルエンザウイルスに対する抵抗性が著しく増強する現象を発見し、その機序の解明に取り組んでいる。アメリカ・コネチカット大学に留学中の吉田助手は、当講座で樹立した突然変異細胞を用いて、2本鎖 RNA である Poly I:C によるインターフェロン誘発機構を解析してきた。この研究は研究生・河合（旭川赤十字血液センター）が引き継いで行なっている。佐久間助教授（ベルギー・ルーベン大学留学中）、錫谷助手、研究生・吉田（旭川日赤・薬剤）は抗ウイルス剤の作用機序と耐性のメカニズムについて研究をしている。この分野は日本では研究者の少ない分野であったが、エイズの出現によって一躍注目される分野となった。佐久間助教授は留学先のベルギーで、サイトメガロウイルスに有効な新しい抗ウイルス剤を発見し、かなり鼻息を荒くしている模様である。これらの研究を陰で支えてくれているのは技官の畠中さんであり、器具洗い、タイプ打ち他、教室の事務一切をこなしていただいている。シャイな我々は言葉や態度には表わしていないが、「畠中さんには足を向けて寝れない。」とまで思っている（と書いておこう）。

昭和60年7月から佐久間助教授がベルギー・ルーベン大学に留学したのを皮切りに、62年7月からは吉田助手がアメリカ・コネチカット大学に、又、64年からは錫谷が留学させていただける予定である。当分の間、教室に残っているスタッフの負担は重くなるが、やはり欧米の様子を見てくることは何にも変え難い貴重な経験であり、皆、東教授に感謝している次第である。

今世紀初頭の各種病原細菌の発見に始まり、最近ではガンウイルス、エイズ、免疫学、遺伝子工学など微生物学は医学の中で常に時代の先端の学問である。まだ解明されていない多くの疾患の中には、遺伝子のみから成る生物・パイロイドや遺伝子を持たない病原体・プリオンの関与も考えられており、研究テーマには事欠かない分野である。微生物学をやってみようという卒業生の出現を教職員一同心待ちにしている。（細菌学講座 助手）

解剖学実習を終えて

第3学年 児玉 晴美

先月、解剖体慰霊式を終え、約30体の御遺体の御霊をようやく家族のもとへお返しすることができ、解剖学実習にもひと区切りついたような気がしています。

まだ春も浅い4月、2年間の教養学年を終えた私達はいよいよ医学の門口に立った興奮と、解剖学を学ぶためとはいえ、数ヶ月前までは生きていた人間の体を切り開いていかなければならないという、いわば人間としてのタブーを犯すことへの恐怖、ほんの僅かの解剖の知識しか持っていないのに、本当にこんなことをしてもよいのだろうかという不安等、様々な思いを抱いて解剖実習室に足を踏み入れました。不思議に明るいま実習室には、30体余りの白布に包まれた御遺体が整然と横たわっています。諸注意の後、剖出の過程を説明するビデオが映し出されると、皆神秘的な顔つきで見入っています。一礼をして初めて御遺体に触れた時、実習室の寒さのためなのか、武者震いなのか足が震えてなりません。この解剖学実習は、3ヶ月間にわたり、週に4日、午後を通して行われるのですが、1日の実習中に、剖出し、確認し、理解しなければならないことはかなりの量になります。日に日に実習が進むにつれて、始めのうちは畏れずら抱いていた御遺体にいつの間にか、親しみを覚えるようになり、週末は、乾燥しないように、十分にホルマリンで湿らせてきっちり包んで帰りました。思えば無言のままの御遺体から私達はどれだけ多くのことを教えられたことでしょうか。どんなに優れた図譜を見ても、教科書を読んでも、それだけでは、想像で考えることしかできません。しかし実際に自分達の手で剖出していく時はじめて、机上の知識は、実感を持った生きた知識となってきます。また体の構築の巧みに驚かされ、その中に1人1人の生涯が様々な形で凝縮され厳然と存在していることに、生命の尊厳をあらためて、考えさせられたことが幾度もありました。医学生のための献体は、生前の故人の御意志、あるいは御遺族の方々の御好意によるものと聞いていますが、未熟な私達の前に横たわる御遺体に、無言のうちに色々なことを教えられ、しっかりやれと、励まされていたような気がします。3年生の秋を迎え解剖学の講義もすでに終了してしまいました。春から初夏にかけての3ヶ月間、私達は実習を通して、解剖学のほんの初歩に触れたにすぎなかったのかもしれませんが、これから様々な科目を学びながらまた、この解剖学実習に立ち戻って、繰り返して本当に実習の意義が大きなものになることを肝に命じたいと思います。

最後に、熱心に御指導くださった諸先生、御遺族の方々に深く感謝をささげ、御遺体の尊き御霊の御冥福をお祈りいたします。

昭和62年度通学方法・ 居住状況調査結果一覧

昭和62年度通学方法・居住状況アンケートをまとめましたので掲載します。

(学生課)

昭和62年6月1日現在

アンケート提出数

学 年	計						大 学 院					
	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	計	
在籍学生数	133 (27)	125 (27)	123 (24)	132 (23)	124 (16)	111 (12)	748 (129)	16 (2)	17 (3)	11	17	61 (5)
アンケート提出数	83 (20)	109 (24)	107 (23)	114 (18)	96 (15)	65 (5)	574 (105)	11 (1)	6 (2)	8	7	32 (3)
提出率(%)	62.4	87.2	87.0	86.4	77.4	58.6	76.7	68.8	35.3	72.7	41.2	52.5

通学方法のまとめ

方法	学 年						計(%)	大 学 院						
	1	2	3	4	5	6		1	2	3	4	計(%)		
徒 歩	29 (7)	15 (4)	12 (3)	12 (4)	23 (5)	5	96 (23)	16.7 (21.9)	1 (1)		1	1	3	9.4 (33.3)
自 転 車	31 (4)	38 (12)	23 (4)	28 (5)	12 (1)	11 (1)	143 (27)	24.9 (25.7)						
バ ス	10 (6)	4 (1)	3	1	1	2	21 (8)	3.7 (7.6)						
バイク	任意加入													
	3	10	7	6	3	9	38 (1)	6.6 (1.0)						
	非加入													
	1	8	12	11	5	1	38 (4)	6.6 (3.8)	1			1	3.1	
自動車	任意加入													
	2	27	33	43	41	25	171 (4)	29.8 (21.0)	10	4	7	6	27	84.4 (33.3)
	非加入													
	1					1	0.2 (1)						0.2 (1)	3.1 (33.3)
自動車相乗	6 (2)	6 (1)	17 (10)	13 (3)	11 (3)	12	65 (19)	11.3 (18.1)						
そ の 他	1 (1)						1 (1)	0.2 (1.0)	1				1	3.1 (33.3)
計	83 (20)	109 (24)	107 (23)	114 (18)	96 (15)	65 (5)	574 (105)		11 (1)	6 (2)	8	7	32 (3)	

居住状況のまとめ

形態	学 年						計(%)	大 学 院						
	1	2	3	4	5	6		1	2	3	4	計(%)		
自 宅	12 (4)	25 (4)	12 (1)	23 (6)	16 (4)	11 (1)	99 (20)	17.2 (19.0)	2 (1)	2	3	1	8	25.0 (33.3)
親戚又は知人宅	4 (3)	2	1		1		8 (3)	1.4 (2.9)						
下 宿	36 (4)	34 (3)	44 (4)	29 (1)	21	14	178 (12)	31.0 (11.4)						
間借アパート	30 (8)	47 (16)	49 (18)	60 (11)	58 (4)	39 (4)	283 (68)	49.3 (64.8)	9 (1)	4	3	5	21	65.6 (66.7)
借 家	1 (1)	1 (1)		2		1	6 (2)	1.0 (1.9)		2	1	3		9.4
道営市営住宅														
計	83 (20)	109 (24)	107 (23)	114 (18)	96 (15)	65 (5)	574 (105)		11 (1)	6 (2)	8	7	32 (3)	

居住状況内訳

居住状況	学 年						計	大 学 院				
	1	2	3	4	5	6		1	2	3	4	計
自 宅	12 (4)	25 (4)	12 (1)	23 (6)	16 (4)	11 (1)	99 (20)	2 (1)	2	3		8 (1)
親戚又は知人宅	4 (3)	2	1				8 (3)					
下 宿	~40,000					1	1					
	~45,000		1				1					
	~50,000											
	50,001~											
宿 (光熱水料込み)	~40,000	1	2	1			4					
	~45,000	11 (1)	9 (2)	13 (1)	11	7	8	59 (4)				
	~50,000	8	8	10 (1)	8	7	3	44 (1)				
	50,001~	3	9 (1)	4	5			21 (1)				
間借	~45,000	3	3	2		3	11					
	~50,000	2 (1)		10 (2)	3			15 (3)				
	~55,000			1	1 (1)			2 (1)				
借	55,001~	2	1				4					
	~45,000			1			2					
	~50,000	2					4					
ア	~55,000	2 (2)		1			4 (2)					
	55,001~	2	1	1	1	1	6					
	~20,000	2 (2)		2		2	6 (3)					
バ	~30,000	1	2	2	1 (1)		6 (1)					
	~40,000	1	3 (1)		1	1	7 (1)					
	40,001~											
イ	~20,000		2	2	1		6 (1)					
	~30,000	4 (1)	10 (4)	14 (1)	12 (1)	8	52 (7)	1			1	2
	~40,000	18 (3)	21 (7)	21 (10)	19 (5)	14 (4)	8	10 (29)	2	1		4 (1)
ト	40,001~	1 (1)	4 (2)	1 (1)	2 (1)		3 (5)	1				1
	~20,000					1	1					
	~30,000	1 (1)	1		2	4	3	11 (2)				1
タ	~40,000	1	1	14 (5)	13 (1)	18 (3)	6 (2)	53 (12)	1	1	1	3
	40,001~			1			1 (1)	2 (1)	2		1	3
	~20,000											
テ	~30,000											
	~40,000											
	40,001~	1 (1)	2 (1)	1 (1)	4 (1)	2 (1)	11 (3)	1	1	1	1	4 (3)
ト	~20,000											
	~30,000											
	~40,000											
タ	40,001~											
	~20,000											
	~30,000											
チ	~40,000											
	40,001~											
	~20,000											
リ	~30,000											
	~40,000											
	40,001~											
ロ	~20,000											
	~30,000											
	~40,000											
ハ	40,001~											
	~20,000											
	~30,000											
ニ	~40,000											
	40,001~											
	~20,000											
ヒ	~30,000											
	~40,000											
	40,001~											
フ	~20,000											
	~30,000											
	~40,000											
ボ	40,001~											
	~20,000											
	~30,000											
ベ	~40,000											
	40,001~											
	~20,000											
セ	~30,000											
	~40,000											
	40,001~											
ソ	~20,000											
	~30,000											
	~40,000											
ダ	40,001~											
	~20,000											
	~30,000											
デ	~40,000											
	40,001~											
	~20,000											
ト	~30,000											
	~40,000											
	40,001~											
チ	~20,000											
	~30,000											
	~40,000											
リ	40,001~											
	~20,000											
	~30,000											
ロ	~40,000											
	40,001~											
	~20,000											
ハ	~30,000											
	~40,000											
	40,001~											
ニ	~20,000											
	~30,000											
	~40,000											
ヒ	40,001~											
	~20,000											

体 育 大 会

学生主催の体育大会が、9月9日(木)に行われた(一部競技は9月5日～8日の昼休みに予選を行った)。

当日は、グランドコンディションが悪くソフトボールが中止になったが、他の6種目は順調に行われ参加学生は各々善戦を繰り広げた。

結果は次のとおり。

(学年対抗)

	優 勝	準 優 勝
総 合	第3学年	第4学年
サッカー	3 ♫	2 ♫
バスケット	3 ♫	4 ♫
綱 引 き	3 ♫	1 ♫
リ レ ー	3 ♫	4 ♫
駅 伝	5 ♫	3 ♫

(有志対抗)

バレーボール 優勝 バレー部全医体優勝記念チーム
(5年 西本)
準優勝 THE SUEHIRO 7
(1年 野呂)



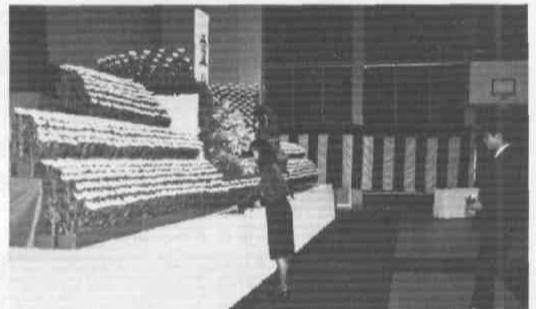
新 入 生 研 修 (第 2 回 目)

5月に行われた第1回目に引き続き第2回目の新入生研修が10月26日(月)～30日(金)(28日は除く)までの4日間、福利厚生施設和室及び職員研修施設において行われた。

研修は、1年生全員を8つのグループに分け、教授2名(一般教育教官1名、基礎・臨床教官1名)の指導のもと、学生14～18名を1グループとして、午後5時10分から約2時間、①前期試験終了後における就学上の問題、②学生生活上の問題などを中心に懇談が行われた。

(学生課)

解 剖 体 慰 霊 式

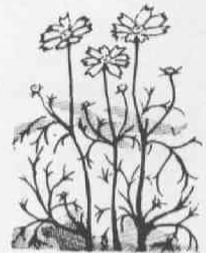


昭和62年度解剖体慰霊式は、9月16日(水)午後1時30分から本学体育館において執り行われました。

式に参会した御遺族・来賓・本学教職員・学生(第3学年)350名は、本学学生の教育及び学術研究のために尊い御遺体を提供され、医学発展の礎石となられた129名(病理解剖62名、法理解剖35名、系統解剖32名)の方の御遺徳を偲び御冥福を祈念しました。

解剖体御芳名奉読、黙とう、学長及び学生代表(3年穴倉朋胤)の追悼の辞のあと、参会者による献花が行われ、鮫島副学長の謝辞をもって、しめやかなうちに今年度の慰霊式が終了しました。

(学生課)



冬型交通事故の防止について

北海道の冬道は、見えにくい、滑りやすいなどの多くの危険を伴っており、これらは直接事故に結び付くものばかりです。

冬道がまわく交通事故の主なもの、

1. 凍結路面でスリップし、追突する、横断中の歩行者をはねる、反対車線にはみ出して衝突する、路外に転落する。
2. 降雪・吹雪などの視界不良により、追突する、衝突する、歩行者をはねる。

3. 輪だちにハンドルをとられて、接触する、衝突する、路外に転落する。

などですが、その他にも道路が狭くなり、又、雪が高く積るため、雪かけから子供が飛び出してきてはねる、交差点で出会いがしらに衝突する、などの事故もあります。

学生諸君は、こうした道路事情を十分認識し、歩行者にあつては自分の身は自分で守る、運転者にあつてはスピードを出さず安全運転を心掛けて、絶対に事故を起こさないように注意する必要があります。

(学生課)

怒外



原田 吉雄

以前、かぐらおか49号で喫煙について私見を述べた。結論として①全ての子等の前ではタバコを吸わないこと、②医学生は、禁煙をすること、③医師は所定の場所で喫煙をすること、④公共施設、特に、当病院と臨床講義棟のロビーには排煙設備を備えた喫煙場所を早急に作ることを提案した。しかし、残念ながら私の周囲では同僚が一人禁煙に踏切った以外一向に変わらない。では、世界の流れはというと、昨年5月に第39回 WHO が開催され「タバコには発癌物質が含まれており、タバコが健康に悪影響を及ぼすことは、すでに化学的に証明されている。タバコ対策が緊急の問題である」と決議された。そして、本年11月9日から3日間東京で第6回喫煙と健康世界会議が開催された。その日本で、洋モクの“Speak Lark”や日本たばこ産業株式会社のTVコマーシャルが放映されている。しかも、タバコが健康に害を与える事には触れず、「未成年者は喫煙を禁止されています」のテロップを流してである。肝心なところで何事にも対策の遅れをとっている歯痒さが喫煙問題に関しても感じる。

喫煙に関して印象に残った二冊の雑誌と論文一編を紹介して喫煙と健康について Summary としたい。一つは、日本医師会雑誌、第98巻7号で「喫煙か健康か」というタイトルの特集が組まれ、平山氏は、「喫煙が老化を5年は促進する。特に肝臓については、(飲酒の影響も加重されると思うが) 加齢をぐんぐん促進し、原発性肝癌については、15年加齢を促進したと考えられる。さらに、

14歳までにタバコを吸い始めた人は吸わない人に比べ2倍以上の癌の死亡率を示しており、加齢の促進の立場からいうと15年程早く癌年齢が来るように思われる。」と指摘した。また、富永氏は受動喫煙：passive smoking (自分では喫煙していなくても、周囲の人が喫煙していると、やむおえずタバコの煙を吸うこと)の害について述べ「喫煙は元来個人の嗜好ですが、児童喫煙の影響が明らかになると、もはや個人の嗜好として黙認するわけにはいなくなり、公害、いや私害の色彩を帯びてきます。」と述べていた。もう一つは、学校保健研究、第29巻10号では、特集「喫煙と健康教育」で「生涯にわたる健康」という視点から教育現場において喫煙を促さざるべき必要性をのべていた。さらに、モダンメディスン11月号で日山氏は受動喫煙と肺癌—「分煙」いまや実行の時—という論文の中で米国公衆衛生総監 (Sugeon General) の最近のレポートを紹介した。閉鎖された空間の環境は、その場を共有する全ての人に関係するものであると前置きしたうえで、

親あるいは成人は、子供たちがタバコの煙に曝露されることにより健康を障害されることのないように、子供たちを守らねばならない。

雇用者も非雇用者も、非喫煙者がタバコの煙にさらされないよう努めなければならない。

自分が喫煙することで他人の健康が損なわれることがないよう配慮することは、喫煙者の責任である。

禁煙しようと努力している喫煙者をサポートするのは非喫煙者の責任であると述べている。

自分自身のため、運動、栄養、休養、節酒で健康に年をとれるように努めるばかりではなく、「禁煙」をそれらに加えて自分を取巻く人間と環境を改善する事を考えてみるのが医学に携る者の義務ではないだろうか。会議を含め、公共の場においての「分煙」に対し具体的な努力をお願いしたい。

(整形外科学講座 助教授)